

2024

同友しずおか5



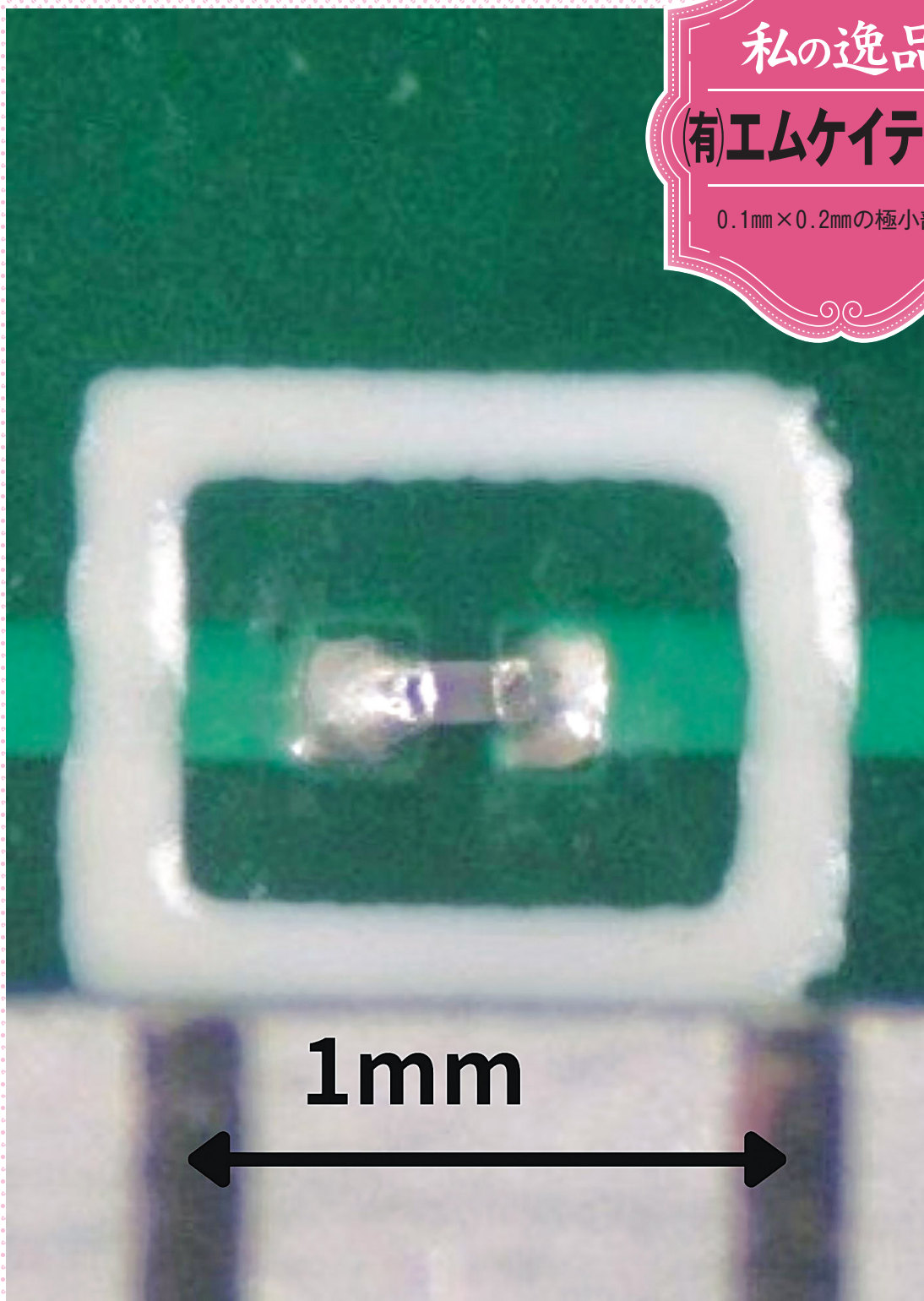
VOL.546

「入ってよかった」「続けてよかった」「誘ってよかった」「企業も地域もよくなった!」

私の逸品

(有)エムケイテクノ

0.1mm×0.2mmの極小部品



1mm



静岡県中小企業家同友会



中小企業家同友会とは

静岡同友会は1974年に71名の経営者が呼びかけあい、設立されました。約1,100名の経営者が、「経営体質の強化」「経営者の能力向上」「経営環境の改善」をめざし、活動しています。全国各地で開催される全国大会をはじめ、県全体で行う定時総会・全県経営フォーラム、また、経営課題別の専門委員会、県下11支部での活動、行政や関係諸団体との懇談、連携等、多岐に亘る活動をしています。

同友会3つの目的

1 よい会社をつくろう

同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。

2 よい経営者になろう

同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。

3 よい経営環境をつくろう

同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。

- 社長はいつも孤独
- 経営の成功体験しか聞けない
- 目の前の仕事に追われる毎日
- 指示待ち社員ばかり
- 経営の悩みを相談する仲間ができた
- 失敗談から勇気とヒントをもらえた
- 将来の会社のビジョンができた
- 自発的な社員が増えた

その答え、
同友会にありました。

会 員 募 集 中

経営者同士だからこそ話せる
悩み、解決へのヒント、将来への展望。
体験してみませんか？

静岡県中小企業家同友会 TEL/054-253-6130
〒420-0857 静岡県浜松市東区静岡三丁目6-66 FAX/054-255-7820 E-mail/doyu@tsdoyu.jp

◆静岡同友会 2025年ビジョン 「企業づくり・地域づくり・同友会づくり」

◆ 企業づくり ◆

私たちは、関わる全ての人が「成長」と「幸せ」を実感できる企業をつくります

◆ 地域づくり ◆

私たちは、中小企業と地域が手を取りあい、人々の幸せが見える地域をつくります

◆ 同友会づくり ◆

私たちは、企業と地域を守る経営者の^{きょうじ}矜持と努力を結集し、
学び・気づき・ワクワク溢れる活動を通して県下1500名会員を実現します

新会員のご紹介 (敬称略) 会員数 1102 名

氏名	社名・事業	所属支部	紹介者	氏名	社名・事業	所属支部	紹介者
こばやし 小林めぐみ	HUBlic合同会社 コンサルティング業（エグゼクティブコーチング、人材マネジメントサポート、シェアオフィス運営、まちづくり業など）	伊東	野村 勝也	くぼたりえ 久保田理恵	(株)マリアージュアカデミー 結婚相談所、ヨガスタジオ	富士	影山 伸和
すぎやま 杉山 博	(株)ライフコンパス 保険代理業（生損保保険販売、コンサルティング）	伊東	土屋 順史	たけだ ゆういちろう 武田雄一郎	(有)武田養鱒場 養殖業	富士宮	赤井 秀敏
たけひら 竹平 太郎	タケヒラトヨー(株) 建設業（建築資材販売施工）	伊東	野村 勝也	はまの 濱野ゆかり	(有)アンカーエクスプレス 一般貨物自動車運送業、倉庫業	静岡	山崎かおり
ふじい 藤井 浩一	CLASS-F 自動車販売（新、中）メンテナンス、 自動車保険	沼津	菅野 清二	やまぐち 山口 裕士	(株)ヤマグチ機械 製造業（金属製品の製造、販売）	志太	池原 智彦

名義変更による新名義人 (敬称略)

氏名	社名・事業	所属支部	旧名義人	氏名	社名・事業	所属支部	旧名義人
さの 佐野 千尋	三島信用金庫 金融業	沼津	久保坂謙一	しんどう 進藤 智保	(株)シンドウ商店 上下水道工事、浄化槽設置工事、リフォーム	榛南	進藤 雄二
ひらつか 平塚 幸信	(株)会館志ほ川 飲食業（そば、うどん、和食等の調理及び接客）	富士宮	井出 達視				

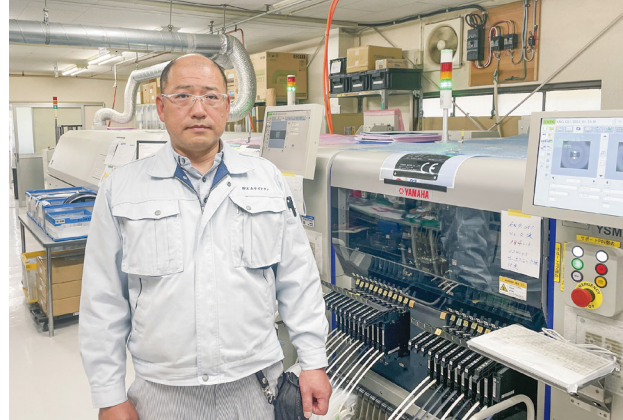
※新会員の写真は e.doyu 「ユーザ名簿」に掲載します。e.doyu からのご確認をお願い致します。



忘れない ～二度と見たくない夢～

(有)エムケイテクノ (三島支部)

代表取締役 三田 宏一氏



三田 宏一氏

入社してすぐに資金が尽きる

(有)エムケイテクノは、1995年に三田氏の父が勤め先の事情により独立を余儀なくされ創業したところから始まりました。自宅の一室で電子部品の半田付けをしていましたが、すぐに経営が安定することではなく、まだ大学生だった三田氏は、生活費のためバイトに明け暮れていました。

卒業後は事業を継ぐ考えもなく、電子関連の商社に入社しましたが、2004年に父が知人と設備投資をして事業を伸ばす計画に参画するために帰郷。しかし、紆余曲折の末、多額の借り入れと誰も扱えない機械だけが残ってしまったのです。なんとか機械の知識のある社員を雇うことができましたが、営業し



社内の様子

ても実績がないことを理由にこの企業も門前払い。自分たちの給与を止めて奔走しますが、1年もしないうちに資金も尽き、事業をたたむことを考えざるを得ない状況になったそうです。

仕事が舞い込んできた！

そんなある日、突然、仕事がたくさん入ってきました。「これで返済もできる！」と安心したものの、それは現実ではなく夢。「夢から覚めて厳しい現実に呼び戻されたときの絶望感は今でも忘れない」と三田氏は言います。もう駄目だと打ちひしがれているとき知り合いの紹介で、現在の主要ユーザーの仕事を受けます。そこから実績を積み、徐々に業績が回復。リーマンショックやコロナなど打撃を受けたこともありましたが、このときほど厳しいときはなかったといえます。

(有)エムケイテクノの強み

そんな三田氏の逸品は、極小部品(0.1mm×0.2mm)の半田付けです。職人が顕微鏡を見ながら手作業で半田付けをします。この高い技術力に加えて、細かな要望に合わせた臨機応変さから顧客の信頼を得ています。ゲーム機器の基板から、自動車関係、医療関係など様々な業界からの

仕事を受け、最近ではより技術力が求められる宇宙関連の機器にも携わっています。

人が機械を活かし、機械が人を活かす

年を重ねても働きやすい環境作りのために機械への投資もしており、創業から働いている方は73歳で今も現役だそうです。「人だけ、機械だけに頼るのではなく、両方を活用しこれからは必要とされる企業として有り続けたい。そして、そんなエムケイテクノで働いて良かったと社員さんに思ってもらえる会社になりたい」と語る三田氏。事業以外でも支援学校や地元中学校の職場体験の受け入れなど社会貢献にも力を入れており、いつも人に頼られていた父の姿を指しているとのこと。最後に



手作業での半田付け

「個人的な目標は？」と聞くと、「ゴルフで70台を出したい！」と取材中一番の笑顔で答えてくれました。

※表紙写真は1mmの枠の中にある0.1mm×0.2mmの極小部品

取材・記事：上月拓真氏
(ピクシス・三島支部)

(有)エムケイテクノ

〒419-0114 田方郡函南町仁田176

TEL：055-978-1517

URL：http://www.mkt.co.jp/

設立 1995年

社員数 9名

入会年月 2007年6月

事業内容 電子部品の組み立て(半田付け)



検査の様子

会員訪問記

同友会入会で再確認した

「企業価値を高める」ことの重要さ

(株)加瀬澤組

工事課長 加瀬澤 真吾氏 (富士宮支部)



加瀬澤氏と田邊氏

大正5年創業の土木・舗装・造園業を営む(株)加瀬澤組の工事課長である加瀬澤真吾氏を訪問しました。加瀬澤氏は神奈川県にある土

木系の大学に進学後、修行をすべく、土木系の大手企業に入社し約10年にわたり経験を積みました。企業規模にしては珍しく、若手で

あっても営業・見積・精算まで一通り経験することができ、今日の基礎になっているそうです。

家業入社 現場の大変さを

知る

景況もあり当初は非常に悩んだものの、その後2014年に家業の加瀬澤組に入社。以前は営業や監理が中心でしたが、現場での仕事も増え、頭だけでなく体も使う日々で、夏場には熱中症でダウンしてしまっただけでもあり、この経験を通じて社員健康にも気を遣う必要性について痛感したと言います。また、営業面においては、生産性の無い閑散期が毎年発生しがちであったことから、従前からお世話になっていた企業に加えて新規顧客獲得のために前職での経験も活かして飛び込み営業なども行うようにして、年間を通じた仕事の平準化をはかっていきました。これらが功を奏し、売上も1.5倍以上に伸びていく中で、入社して8年が経過した2022年10月に工事課長に就任、さらに経営にもよ



田貫湖周遊道路の舗装工事

り深く関与していくことになりました。

同友会への入会

同友会への誘いは長く断り続けていましたが、それでも富士宮支部の宇佐美健介氏(株)エー・ジェン(トウサミ)や篠威頼氏(株)アサギリ)の熱心な声掛けにより、2023年3月に「新会員さん出番ですよ!」の例会への参加を機に入会を決定したそうです。まだ会歴は浅いものの、様々な業種の方の経営者としての生き様を見て、非常に良い刺激を受けていると加瀬澤氏。独自の評価制度を作っている会社、社員に給与公開している会社、予算のない見込み顧客に勇気を持って断っている会社など、この1年間で大きな気づきがあったと話します。仕事欲しさがゆえの安易な値引き等に走ることなく、適正な見積もり、適正な仕事の提供に意識を置いて「企業価値を高める」べきであるとの確信に至りました。

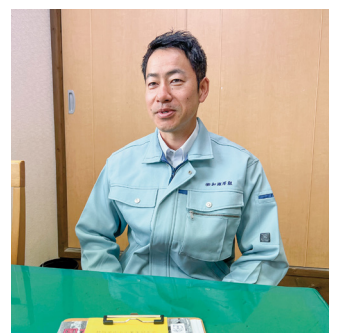


ドラッグストア駐車場工事

社員全員の真心込めた仕事への取り組みが営業につながる

「今後は若手の従業員も増やしていきたい。また、営業活動を営業職だけがやるのではなく、現場の職人さんも含め、全社で丁寧かつ的確な仕事を真心こめて行い、加瀬澤組さんにまた頼みたいと言ってくれる方を増やしたい」と加瀬澤氏。新しい企業風土を創りながら、また今後の事業承継も視野に入れながら、日々邁進しています。

取材・記事：田邊元裕氏
(株)カボス・富士宮支部



取材の様子

(株)加瀬澤組

〒418-0075 富士宮市田中町585

TEL : 0544-27-2138

URL : <https://kasezawagumi.com/>

創業 1916年

社員数 15名

入会年月 2023年3月

事業内容 建設業(土木工事、舗装工事、造園工事)

会員訪問記

活鰻流通の綺羅星となる

(株)彩匠
榊原範之氏(志太支部)



左から大池盛一郎氏、榊原範之氏、村松繁氏

榛原郡吉田町はかつて、養鰻業が大変盛んでした。その歴史は正時代にさかのぼります。たび重なる大井川の氾濫で、吉田町の田んぼからは、大井川の冷たい伏流水が湧き出てしまい、稲作に適さない土地となります。そんな吉田

町の土地を逆手にとって、養鰻業を導入した先人により、吉田町の経済は生まれ変わりました。
地場産業を新たに受け継ぐ
昭和40年代に6000トンを超す出荷高を誇った養鰻業ですが、



活鰻の出荷は鮮度がカギ

路地池の養殖から加温ハウス池の養殖に移行していく中で、養鰻業は淘汰され現在に至ります。また、活鰻(かつまん)の流通業も、吉田町の鰻を取りする流れから、中国・台湾・九州・三河の鰻を貿易する商社としての動きに変化していきます。そんな地域の歴史の中で創業者、榊原隆司氏は鰻の貿易会社で修行したのち、活鰻卸業の会社を譲り受ける形で2011年5月に(株)彩匠を創業。榊原社長のご長男、範之氏は福祉を大学で学んだ後、愛知県の介護施設勤務を経て、生まれ故郷の藤枝に帰り、2021(令和3)年、家業の(株)彩匠に入社しました。

(株)彩匠の今と未来

父親同士が同級生だった縁で、昔からの知り合いだった望月運輸(株)の鈴木雅芳氏(志太支部会員)の紹介で同友会志太支部に入会。昨年は全県フォーラムの実行委員会にも所属し、同友会活動にも積極的に参加している榊原範之氏に(株)彩匠の今と未来をお聞きしました。



浜名湖産10キロで45匹パック

「彩匠の特徴は、鰻の鮮度・品質にこだわりながら、お客様の要望に素早く応える情報網です。天然ものの鰻が欲しいとなったら、日本中の鰻流通業者と連絡を取って対応します。どこの産地のどんな鰻が欲しいという要望には、徹底的に対応します。そんな体制は一朝一夕にはできません。社長が長年培った鰻生産業者さんとの信頼関係が(株)彩匠の最大の特徴です。どこの業界にも業界紙があると思いますが、養鰻業の業界紙の記者さんは、何かあると必ずと言っていいほど、社長の鰻に関する情報量の多さは、息子の自分がいつになつたら近づけるだろうと思うほど膨大です。でなければ、総勢10名のスタッフで年商14~15億円を達成できるはずはありません」と語る範之氏。また「同友会では、色々な経営者の考え方に触れることで、自分なりの会社経営を学びたいと思っています。ですから、声をかけていただいたら役割をお受けするようにしています」と話

します。入会以来、積極的に同友会活動に参加してきた理由が垣間見られました。

同友会で学び企業の柱を築く

同友会活動を通じて、(株)彩匠の未来を徐々にイメージするようになったと話す範之氏。まだ、経営理念や指針はありませんが、「お客様にも一緒に働ける社員のみならずにも喜んでいただける会社になるように、取り組んでいきたいです。そのために、同友会は無くてはならない存在です。会社の理念は精神的な柱だと思います。自分なりに言葉を積み上げ、理念という柱を早く築き上げたいです」と語ります。今は活鰻の流通を一から学ぶ毎日ですが、父が築いた基礎をどのように発展させていくのか。範之氏の活躍が大いに期待できる取材となりました。

取材・記事：村松繁氏

(アイマーク(株) 志太支部)
取材：大池盛一郎氏

(南カライフ静岡・志太支部)

(株)彩匠

〒421-0303 榛原郡吉田町片岡2005-8

TEL：0548-33-3500

創業 2011年

社員数 10名(うち正社員7名・パート2名・シルバー1名)

入会年月 2021年7月

事業内容 活鰻(かつまん)卸売

県共育委員会主催 合同入社式・若手社員一泊研修を開催

計13社19名が社会人としての 自覚を身に付け、仕事の基本を学ぶ

合同入社式 4月1日(月)
会場：静岡県総合研修所 もくせい会館

県共育委員会主催の合同入社式を開催し、
会員企業12社より計17名の新入社員が参加
しました。野川和三県共育委員長(株)野川



合同入社式集合写真



野川委員長

「さい」と新入社員
へエールを送りま
した。その後のグ
ループ討論では、
社会人にとって大

切なことに話し合い、講演から学ん
だことや各々の抱負を語りあいました。最
後に参加企業の会員経営者から記念品を贈
呈しました。参加者からは「成長して、将
来見本になれるような立派な社会人になり
たい」「失敗」に代わる言葉は「経験値」だ
と思う」などの感想が寄せられ、社会人と
して前向きに一步を踏み出す場となりました。



先輩社員メッセージ



記念講演 鈴木晋太郎氏

商店・榛南支
部は冒頭の挨拶で、参加者へ
の祝辞と共に
「同友会は経営
者も社員も共に
育つと書いて
『共育』と言いま
す。皆さんに
は地域の宝に
なってもらいた
いと思っています。
一歩ずつ成長し
て素敵な社会人
になってくださ
い」と述べまし
た。続く記念講

若手社員一泊研修 4月1日(月)～4月2日(火)
2日目会場：レイアツ御幸町ビルCSA会議室610D

合同入社式に引き続き若手社員一泊研修
を開催、会員企業13社より19名が受講しま
した。一日目は杉山静江氏(有声)を講師
にむかえ、接客応対や言葉づかい、電話応
対などのビジネスマナーを学びました。第
2部では須山由佳子氏(有)キャリア・アツ
プ・浜松支部)を講師に、新聞紙を使い
チーム単位でペーパータワーの高さを競い
合うチームビルディングの研修を通して、
チームで成果を出すために大切なことを学
びました。二日目は引き続き須山氏を講師
に、コミュニケーションの重要性や信頼さ
れる社員になるための「報告・連絡・相談」
を学びました。参加者からは「明るくハキ
ハキと話すこと、素直でいること、基本を
実践していきたい」「報連相やコミュニケー
ションを大切に
して良い人間関
係を築いていき
たい」などの感
想が寄せられ、
二日間を通して
同じ地域で働く
仲間と共に社会
人としての基本
を学びあう研修
となりました。



チームビルディングの様子

次回回は、5月24
日(金)19時より、
県青年部メンバ
ーが同世代と広く繋
がる同友会の魅力
をお伝えします！
皆さんのご参加お
待ちしています。

4月イントロセミナー

様々な経営者の考え方を学び自分の
ことを話す、その交流が同友会の魅力

4月26日(金)

同友会会議室&ZOOM

オプザバーや新会員にむけて同友会を
知って頂く機会として、また仲間との交流
の場として毎月開催しているイントロセミ
ナー。4月イントロセミナーにはオプザ
バーが1名参加、浜松支部より昨年入会し
た牧野共隆氏(株)牧野配管)と紹介者の江
間省豪氏(データマイン(株))が報告しまし
た。

江間氏は2019年に県の経営指針を創
る会に参加し経営指針書を作成しました。
その直後に社会はコロナ禍に突入。経営指
針があったことで危機を乗り越えることが
でき同友会での学びの大きさを体感してか
らは、一緒に頑張っていきたいと思う経営
者を誘い続けています。そんな江間氏に誘
われ入会した牧野氏。入会を決めたのは、
例会に参加した際に色々な経営者と話せた
ことで「自身の中でずっと感じていた感覚が
あり、継続して参加したい」と感じたこと、自
身が感じる同友会の魅力を伝えました。

報告後は社員の採用、教育、社員との向
きあい方、経営者としての在り方において
実践していること
を意見交換しまし
た。



紹介、入会のきっかけを報告する江間氏と牧野氏

次回回は、5月24
日(金)19時より、
県青年部メンバ
ーが同世代と広く繋
がる同友会の魅力
をお伝えします！
皆さんのご参加お
待ちしています。

すべての支部で総会を開催 新たな体制、方針で新年度スタート

4月12日の富士宮支部総会を皮切りに各支部で定時総会を開催し、4月24日の沼津支部総会をもって11支部すべての総会が終了しました。総会では2023年度の活動を振り返り、2024年度の方針を支部長より発表しました。また、富士支部と富士宮支部では正副代表理事による記念講演



静岡支部総会 支部役員が登壇

を行いました。三島、浜松の2支部で新支部長が就任、新たな役員体制で新年度をスタートしました。総会終了後は懇親会で飲食を共にしながら会員同士の交流を深め、各支部活気のある新年度の幕開けとなりました。総会の一部の内容を紹介します。

三島支部

三島支部総会にて、新支部長に増田隼人氏(㈱集客デザイン研究所・代表)が就任しました。支部の運営方針について増田氏はオリジナルの資料を用いながら、支部活動の活性化を目的に打ち立てた3年計画「1・2・3ステップUPスケール大作戦」の1年目として「10の支部交流、10の団体交流、10の会員拡大に繋がる活動を行い、三島支部の活動の輪を拡げてゆく」と話しました。

浜松支部

浜松支部総会にて、秋山英正氏(浜松資材(株)・代表取締役)が新支部長に就任しました。支部活動方針では「良い経営者になろう!社員みんなの笑顔のために」をテーマに「会員数が50名を突破した浜松支部で、同友会の基本理念を忘れずに会員相互に向上できる支部づくりをしていきたい」と



三島支部運営方針をビジュアル化して説明

富士支部

話しました。

富士支部総会では簗威頼代表理事(㈱アサギリ)より「学びの体現者たち! 労使見解から学ぶ同友会の理念」をテーマに講演。「大変だからこそ学ぶ、大変だからこそ活動に参加する」「正しく学び、正しく実践し続ける、それが同友会の王道を歩むこと」と大切にしていく考え方や会社を継いだ時の厳しい状況からいかに企業づくりを進めてきたかを伝えました。

富士宮支部

富士宮支部総会では青山達弘副代表理事(㈱青山建材工業)が「地域の未来に人を生かす経営の実践」をテーマに講演、同友会で学んで得たことや「失敗しても良くて完璧な自分を目指すのではなく自分の頭で考え行動すること」と自身・自社で大切にしている考え方について話しました。最後に、同友会3つの目的の「連帯の精神」について「高い次元で“あてにし、あてにされる関係とはどんな関係か”参加者に問いを送りました。



静岡県中小企業家同友会 祝50周年記念事業 NEXT50フォーラム～誰ひとり取り残さない～

2024年11月28日(木)ホテルグランヒルズ静岡にて開催！！
今からぜひご予約ください！

5月・6月

DOYU CALENDAR

5月16日(木)～6月15日(土)

5月 17日(金)	県障がい者問題委員会 関係機関との意見交換会【中部】(18:30 同友会事務局)
21日(火)	第21期経営指針を創る会オリエンテーション(19:00 同友会事務局)
22日(水)	志太例会 (18:30 藤枝市文化センター) 伊東例会 (19:00 ひぐらし会館&ZOOM)
23日(木)	県理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM) 榛南例会 (19:00 きてご榛原 島田掛川信用金庫2階)
24日(金)	三島例会 (19:00 三島商工会議所) イントロセミナー (19:00 同友会事務局&ZOOM)
28日(火)	静岡財務事務所との意見交換会 (15:00 同友会事務局) 県例会企画委員会 (18:30 ZOOM)
29日(水)	総務財務委員会 (16:00 同友会事務局&ZOOM)

31日(金)	県政策委員会 (18:30 調整中)
6月 3日(月)	NEXT50フォーラム幹事会④ (16:00 調整中)
6日(木)	正副代表理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM)
10日(月)	NEXT50フォーラム実行委員会④ (16:00 調整中)
11日(火)	静岡例会 (19:00 ペガサート静岡)
12日(水)	御殿場例会 (19:00 エピスクエア)
13日(木)	第27回女性経営者全国交流会 in大阪 (13:00 スイスホテル南海大阪)



《 あなたのスケジュールノートに
必要事項をご記入ください 》



自社のIT化の取り組みを報告する村松氏

報告後は、IT化で取り組んでいきたいことについてバズセッションを行いました。「ITの進歩は目覚ましく、社員の方が新しい情報を持っていたりする。他社との差別化のためにも経営者が危機感を持って取り組むことが大切」などの意見が交わされました。広報情報化委員会では今後も勉強会を開催予定です！ぜひ多くのご参加をお待ちしております。

昨年10月に第一回を開催した県広報情報化委員会主催のDXオープン勉強会。第二弾となる今回は36名が参加しました。村松繁氏（アイマーク(株)・志太支部）と太田喜貴氏（キラガ・沼津支部）の2名から自社でのDXの取り組みを報告。早くから様々な業務のIT化に取り組んできた村松氏からは、お客様から信頼される企業になるために、様々なソフトを導入しながら、個人情報保護・サイバー攻撃やメール誤送信への対策など徹底したセキュリティ対策を行っているとの報告しました。太田氏からは「初心者でも出来る動画作成術」を報告。インスタなどのSNS運用やライブコマースで売上拡大に繋げている太田氏は、「動画を作ったことがない人でも、今はAIを活用すれば台本からナレーションまで自動で作ってくれるツールもあるのでぜひ挑戦してみたい」と話し、実際にAIで作成した動画や、作成方法を見せながら説明し参加者からは驚きの声があがりました。

県広報情報化委員会主催オープン勉強会
できることから始めよう！
事例から学ぶ中小企業の現実的なDX 第2弾

4月23日(火) 同友会事務局・ZOOM